

第282回 番組審議会

1. 日 時 令和元年 5月14日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 7名
出席委員数 6名 (欠席委員数 1名)

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)

砂子田 智 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広

小崎 博子

菅原 正二

高橋 博昭

○ 会社側出席者 (8名)

藤澤 利憲 (代表取締役社長)

小原 忍 (取締役副社長)

藤原 銀司 (常務取締役)

齋藤 秋水 (常務取締役)

工藤 浩 (取締役)

高嶋 昇 (取締役営業編成局長兼東京支社長)

近谷 利政 (報道制作局報道部長)

鎌田 淑子 (報道制作局制作部チーフディレクター)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議 題 『A. B. C-Zの雨ニモマケ-Z』

平成31年 3月30日(土) 12:00~12:55放送

5. 議事概要

今回は、3月30日昼12時から放送した『A. B. C-Zの雨ニモマケ-Z』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道制作局報道部 近谷利政部長からの説明

・番組に出演して頂いたA. B. C-Zは、ジャニーズ事務所に所属する30代前半の4人と25歳が1人の5人組。東日本大震災当時はデビューする前だった。彼らがこのプロジェクトに携わったきっかけは、メンバーの一人塚田僚一君が昨年の「FNS27時間テレビ にほん人は何を食べてきたのか?」に出演し、釜石市で突きん棒漁に挑戦したことだった。

被災地を初めて訪れて感じた素直な言葉や表情を通して、被災地の現状を多くの人に見てもらい、伝えることができたのではないか。

・放送後、ツイッターやメール、葉書などかなりの反響があった。フジテレビを含め全国10局以上で放送が決定しており、震災の現状をさらに風化を防ぐことに繋がれば良いと思っている。今年の秋、来年3月に続編も予定している。

●岩手めんこいテレビ報道制作局制作部 鎌田淑子チーフディレクターからの説明

・今回の番組は、昨年12月と今年3月の2回のロケを合わせて構成した。メンバーの5人には、多くの人と話をしてほしいと思い、たくさん場所を巡った。彼らは震災当時東京にいて、何かしたいのに何もできない状況だったということもあり、取材に対して丁寧に、真摯に取り組んで頂いた。

・震災復興をテーマに多くの番組を制作してきたが、今回は、震災を知らない、あまり記憶のない世代やエリアに発信することを強く意識した。番組の放送後、たくさん若い人たちから感想を頂いた。それは、A. B. C-Zが、若い人に支持され、そのファンがSNSなど、色々な発信元から震災を訴えかけてくれた成果だと思っている。

- ・今回、より広く知ってもらうために、知ったかぶりをせず丁寧につけていたらと思う機会になった。

●出席した委員からの意見

- ・放送前に番組を見て新聞で紹介原稿を書いたが、その原稿通りに反響があつて良かった。素直な表情や言葉は、理屈っぽく原稿を書くより、よほど説得力があつた。

- ・震災の記憶は、年配よりもむしろ若い人に伝えなければならないこと。ジャニーズのA. B. C-Zや嵐は、我々が想像する以上に影響力があり「この手があつたか」と思った。

- ・今後もいろんな方法で続けてほしい。

- ・「震災、復興はもう終わったと思っていた」という発言が衝撃的だった。

- ・今後、彼らからの発意で「こういうことが出来ないか」というところまで行くと、すごくいいのかなと思って見た。

- ・深掘りするところ、新しいところと取捨選択していくとより良いと思う。

- ・ジャニーズはチャラチャラしたイメージだったが、苦勞してきたことが言葉に出ていて「この人だったらいいな」と第一印象で思った。

- ・八木亜希子さんのナレーションも落ち着いていて、このキャストでこのナレーションであれば、番組はこういうふうにはっきり見られるんだという感想を持った。

- ・非常に良い番組だと思った。被災県だけでなく全国に向けて発信されるような番組で本当にうれしいという思い。

- ・「雨ニモマケズ」は、タイトルとしてどうなのか。新聞の番組欄を見た人が震災の番組だと思うだろうか。

・岩手県外で放送された時に、話の一つ一つを理解できるか心配になった。もう少し会話や場面を説明してもいいのではないか。

・「風化防止をお願い」というだけではなく、そろそろ何か行動を起こさないといけないんじゃないか、そういう気がした。

●委員からの質問、意見に対する会社側からの回答

・彼らと話すたびに人柄の良さが伝わってきて、彼らの良さをどう引き出せばいいのかというところが苦勞した。

・彼らの言葉が純粹で、ふと忘れたような言葉を言ってくれて逆に勉強になった。今後も継続して岩手の被災地を応援してもらいたいと思っている。

・タイトルの「雨ニモマケ-Z」を見ただけで、A. B. C-Zが岩手で色々なことをやっているんだなと浸透するくらいやっていかなければという気持ちになった。

●齋藤常務からの説明

・復興のために本当にやらなければならないことは、東京を動かすこと。東京を動かすにはどうしたらいいかと考えて、こういう方法をとった。

・東京の人たちや色々な力を借りて行動していかないと、何ひとつ進まず忘れ去られてしまう。

・昨年の年末報道特番では、広島や岡山、北海道の話ばかりで、「復興」「震災」はもう岩手のことではなくなっている。こういう番組を通して、何とか広げていきたいという思いで番組を制作した。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成31年5月15日（水） 産経新聞 東北版

※平成31年5月25日（土）午前4時12分から4時15分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

次回は、令和元年6月11日（火）12時より3階「星雲東の間」にて開催予定です。